

## 原油価格と米国経済・石油市場との関係

—石油需給・経済情勢に基づくWTI実力価格の推計と影響分析—

計量分析ユニット 需給分析・予測グループ リーダー

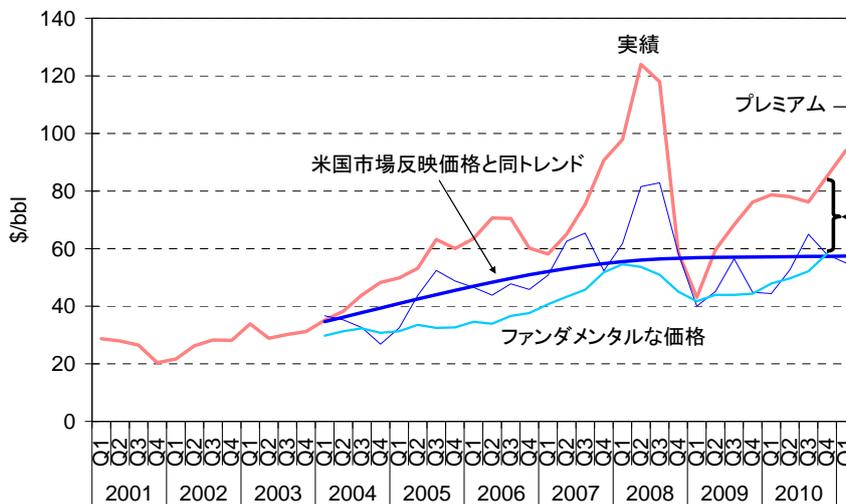
柳澤 明

### 要旨

世界経済は安定成長を回復しつつあるものの、依然として脆弱さが懸念されている。とりわけ、騰勢を強めている原油価格への警戒感が高まっている。原油価格高騰の背景として、地政学リスクなどによる供給懸念、増大する新興国の石油需要、金融緩和による投機資金の流入などが挙げられている。そして、2つの対立する見解—現在の価格水準は需給を反映したものであるという見解と、それ以外の影響が少なからず存在するという見解—が存在している。原油価格が実際の需給バランスとは異なる要因で上振れしている、あるいは今後も上振れするのであれば、確固とした経済回復への足取りを阻むこととなる。

定量モデルを用いた分析によると、米国の石油需給・経済情勢に基づくWTIの実力価格(米国市場反映価格)は2010年第4四半期、2011年第1四半期において\$55/bbl程度と推計される。同様に世界の石油需給から示唆されるファンダメンタルな価格は2010年第4四半期において\$60/bbl弱、プレミアムは\$25/bbl強に上っていたものと推計される。

WTI価格実績値、米国市場反映価格、ファンダメンタルな価格



2004～2010年において、WTI価格実績値は米国市場反映価格に比べ平均およそ\$18/bbl割高であった。この割高な油価により、同期間の米国の経済成長率は年率換算0.4%ポイント押し下げられ、7年分の影響の累積により、2010年の実質GDPは2.4%低い水準に留まったものと推計される。

キーワード: 原油価格、WTI、ファンダメンタル、プレミアム、石油需給、GDP、経済成長

お問い合わせ: report@tky.ieej.or.jp